

皆さん、明けましておめでとうございます。

平成 29 年の歳がスタートしました。皆さんは、それぞれに希望を胸に新しい年を迎えたことと思います。

新年のスタート、3 学期を始めるに当たって、この冬休みに出会ったある一冊の本をもとにお話しをしたいと思います。

本の名前は「GRIT やり抜く力」です。

著者はアンジェラ・ダックワースというアメリカのペンシルベニア大学心理学教授で、本の副題に「人生のあらゆる成功を決める『究極の能力』を身につける」とありました。

この本では、持っている能力を十分に発揮するためには「やり抜く力」が極めて大切であること。人生というマラソンの中で何を成し遂げられるかは、「才能」よりも「やり抜く力」、即ち長期的な目標に向けた「情熱」と「粘り強さ」にかかっていると書かれています。

我々は、新聞に載るほどの偉業を成し遂げた人には「並外れた才能の持ち主」とあがめてしまう。「才能」が「達成」に直結していると考えてしまう。

一流のアスリートや宇宙飛行士、芸術家など、多数の、多岐にわたるジャンルの人たちを対象とする調査結果と研究の成果として、偉業を成し遂げたすべての人が、必ずしも飛び抜けた才能の持ち主だとは限らないそうです。アンジェラさんは「人がどれだけのことを達成できるかは『才能』と『努力』のふたつにかかっている。」と、当たり前と思うことを強調しています。

「努力をしなければ、たとえ才能があっても宝の持ち腐れ。」

「努力をしなければ、もっと上達するはずのスキルもそこで頭打ち。」

「努力によって初めて才能はスキル（獲得した能力・技能）になり、努力によってスキルが生かされ、様々なものを生み出すことができる」と説いています。

皆さんの中には、才能を眠らせたまま、生かす努力を怠っている人はいませんか？

日々の生活の中で、「情熱を持って、粘り強く、やり抜こうとしているか」どうか、振り返ってみてください。

コツコツと目標に向かって努力を続けている人は、その姿勢が正しいと信じ、これからも続けて欲しいと思います。

皆さんは、言われなくても努力の大切さを理解しているでしょう。また、この当たり前の「努力を続けること」が難しいことも知っているでしょう。

この本では「昨日よりもできるようになる」「昨日よりも上手になれる」ことに希望を見だし、少し高めの目標を設定し、集中して取り組むことで、「やり抜く力」を伸ばすことができると説いています。

授業や行事、クラブ活動等において、皆さんの潜在能力を最大限に発揮する努力をしてください。どんなささいなことでも、最後まで全力を尽くして欲しいと思います。

次に、2学期の終業式で伝えたことと重なるところはありますが、各学年の皆さんへのメッセージです。

1年生にとっては、この春後輩が入学してきます。後輩にとって良きモデルとなって欲しいと思います。周囲の人からも「成長したなあ」と言ってもらえるよう、「成長」をキーワードの一つとして努力しましょう。

2年生、この4月からは最高学年であり最終学年でもあります。最高学年としての「誇りと責任」を持って後輩たちをリードしてください。そして、進路実現に向け、具体的な目標と計画をたて、着実に努力を続けてください。

3年生、昨年12月、あるクラスの黒板に「有終の美」と書かれていました。

「有終の美を飾る」ということは、「最後まで気を抜かずしっかりとやり遂げる」ということです。その意味を噛みしめ、残された学校生活を大切にしてください。

最後に、卒業式について私の思いを伝えたいと思います。

私は、卒業式について格別な思いを持っています。

1年時、どことなく幼さの感じられる生徒が、3年間の学校生活を通して、ともに笑ったり、時には真剣に叱ったり、様々な出来事を経て、成長していく様子を見続けながら、高校生活最後の日を迎えます。一人ひとりの生徒のことを思い浮かべながら、別れを迎える切なさ、寂しさ。そして、学校を立派に巣立っていく生徒に寄せる期待。卒業式は、そんな思いが交錯するかけがえのない日なのです。高校生活最後の授業なのです。

先生方は3年という月日でそう思うわけですが、これまで育ててこられた保護者の方々にとっては、皆さんのことを思う気持ちはより一層格別なものです。

ですから、そういった高校生活最後の思い出となる場合は、私の経験からも厳粛なほど、皆さんの行動が凛々しく、潔いほど、皆さんにとっても我々にとっても、その感動や感慨は深くなるものと確信しています。

時間の長さや奇抜な演出ではなく、贅沢・派手な服装の美しさでもなく、皆さんのありのままの成長した姿を目に焼き付けて送り出したいと思っています。

1学期、30人ほどの生徒が校長室で自分たちの思いを語ってくれました。私は、私なりにその思いを受けとめました。しかし、その一方で、話を聞いてあげられず、思いを受けとめることができなかつた人がいることも事実です。

私は、42期生が体育祭で見せてくれたがんばりと凛々しさ、最後に示してくれたひたむきな気持ちが強く印象に残っています。その時と同じように、「有終の美を飾る」の言葉にふさわしい、清々しく、思い出に残る場となることを願っています。

結びに、風邪やインフルエンザ等の感染症が流行しています。3学期という大切な締めくくりの時期です。くれぐれも健康と安全に留意し、皆さんの「やり抜く力」を存分に発揮してください。